



BY1284



勘定奉行 / i 10 / i 8 / i / J シリーズからの

移行前の確認事項

[2019/10/17] 版

はじめに	1 ページ
ステップ 1 コンバート条件を確認しましょう	2 ページ
ステップ 2 移行するデータがコンバート可能かを 確認しましょう	4 ページ
ステップ 3 移行元の製品環境を確認しましょう	7 ページ
ステップ 4 移行した際の制限事項を確認しましょう	8 ページ
ステップ 5 移行元の製品で必要な確認をしましょう	11 ページ

『勘定奉行 / i 10 / i 8 / i / J』シリーズをご利用の場合は、本紙を必ずご確認ください。

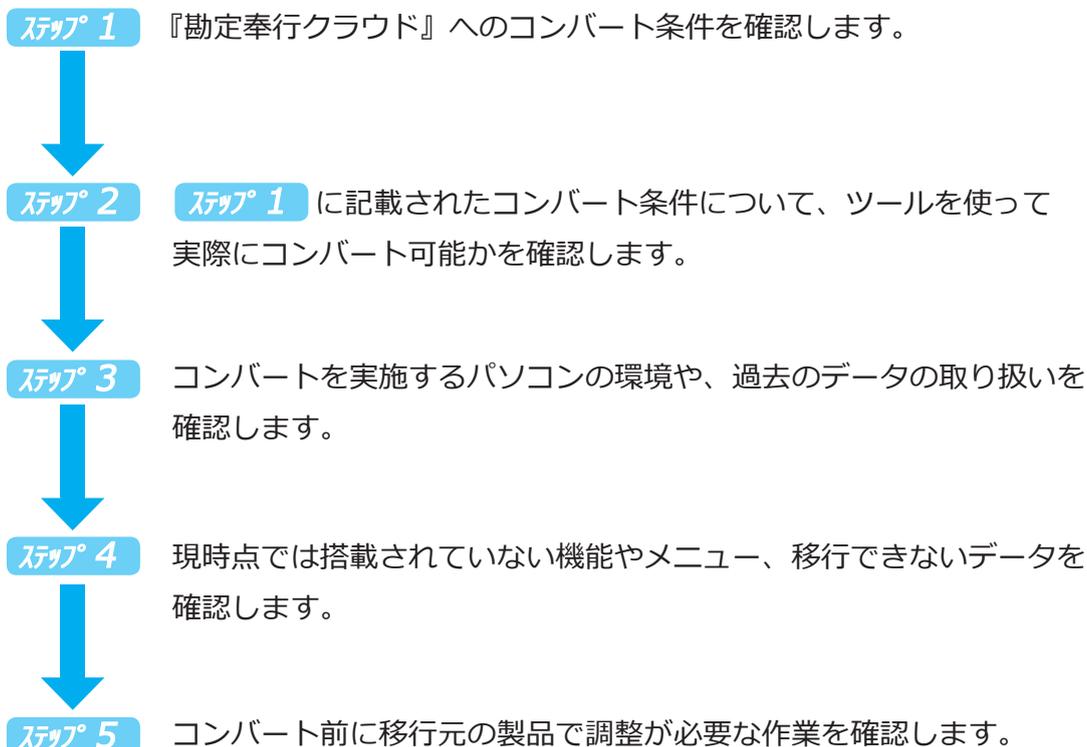
はじめて『勘定奉行』シリーズをご利用の場合は、本紙はお読みいただく必要はありません。

はじめに

現在ご利用いただいております『勘定奉行 / 10 / / 8 / / J』シリーズから『勘定奉行クラウド』へデータを移行する際の、重要なコンバート条件を記載しています。

したがって、必ず内容をご確認いただき、コンバートが可能かをご判断ください。

本紙は5つのステップで構成されております。以下の流れに沿って、コンバート条件をご確認ください。



OBC または販売パートナーにコンバートの代行作業を依頼いただく場合は、「事前確認シート」(本紙の最終ページ) の記載をお願いする場合がございます。代行作業を依頼しない場合は、記入する必要はありません。

ステップ 1 コンバート条件を確認しましょう

コンバートするにあたり、以下の条件にあっているかを確認します。

ステップ 1 で記載している内容は、ステップ 2 でツールを使用して確認します。

1. 対象製品の確認

■ 対象製品

- 『勘定奉行 / 10 / 8 / 』
- 『奉行 J - 会計編 -』



注意

以下の製品やオプションをご使用の場合は、コンバートは実行できません。

- 製品
『勘定奉行 V ERP10 / V ERP8 / V ERP』
『勘定奉行 [個別原価管理編]』シリーズ
『勘定奉行 [建設業編]』シリーズ
- オプション
『管理会計オプション』
『外貨入力オプション』



注意

以下の製品やオプションをご使用の場合は、コンバートは実行できますが、移行されないデータがあるため、ご注意ください。

- オプション
オプションのデータは移行されません。
『入金管理オプション』
『支払管理オプション』
『電債・受取手形管理オプション』
『電債・支払手形管理オプション』
『電子記録債権連携サービス (てん末管理)』
『奉行 Linkit サービス』
- 『勘定奉行 / 新 ERP』
カスタマイズにより追加していた SQL Server 上のテーブルや列は移行されません。
- 『固定資産奉行』『償却奉行』
『勘定奉行』とデータを統合している場合は、『固定資産奉行』『償却奉行』のデータは移行されません。

■ 対象製品のプログラムバージョン

- 『勘定奉行 / 10』 Ver.3.11 以降
- 『勘定奉行 / 8』 Ver.2.60 以降
- 『勘定奉行 / 』 Ver.2.60 以降
- 『奉行 J - 会計編 -』 Ver.2.60 以降

2. 対象データの確認

■ 移行可能なデータ容量

	基本明細件数	最大明細件数	追加明細単位
勘定奉行クラウド i	300,000 件	1,000,000 件	50,000 件ごと
勘定奉行クラウド J	100,000 件	100,000 件	-

上図の「基本明細件数」は、登録可能な明細件数です。

『明細数拡張 for 勘定奉行クラウド』を追加で購入することで、「最大明細件数」まで登録可能な明細件数を増やすことができます。

(『勘定奉行クラウド J』の「基本明細件数」を超える場合は、『勘定奉行クラウド i』の購入をご検討ください。)



「基本明細件数」内に収めてコンバートする場合は、あらかじめ移行元の製品で移行したい事業年度以外を削除することで、移行する明細件数を減らせます。

■ 移行するデータ領域

『勘定奉行 / 』シリーズ（以下「移行元の製品」）から移行できるのは、1ライセンスにつき、1つのデータ領域です。

複数のデータ領域を移行する場合は、複数のライセンスが必要になります。

ステップ 2 移行するデータがコンバート可能かを確認しましょう

『データコンバート事前確認ツール』（以下ツール）を使用して、実際にコンバートが可能かを確認します。

※すでにツールをセットアップ済みの場合は、デスクトップにある「勘定奉行クラウド データコンバート事前確認ツール」を起動します。

① ダウンロード

以下の URL からツールをダウンロードします。

<http://www.obc.co.jp/checkconv-kanjyo>

■ Microsoft Edge の場合

CheckConvert_FL_Accounting.zip のダウンロードが完了しました。

開く フォルダを開く ダウンロードの表示 ×

■ Internet Explorer の場合

Internet Explorer

CheckConvert_FL_Accounting.zip で行う操作を選んでください。

サイズ: 12.2 MB
サイト: imdi.obc.co.jp

→ 開く(O)
ファイルは自動保存されません。

→ 保存(S)

→ 名前を付けて保存(A)

キャンセル

「開く」をクリック

■ Google Chrome の場合

CheckConvert_FL_A...zip

すべて表示 ×

ここをクリック

② セットアップ

Files

Setup

Setup.exe.config

このファイルをダブルクリック

セットアップが完了すると、ツールが自動的に起動します。

■ 以下の画面が表示された場合

1. 「同意する」にチェック
2. 「インストール」をクリック
3. インストール完了後に「完了」をクリック

Microsoft .NET 2015

.NET Framework 4.6.1 セットアップ

続行するには、ライセンス条項に同意してください。

マイクロソフト ソフトウェア 追加ライセンス条項

.NET FRAMEWORK AND ASSOCIATED LANGUAGE PACKS FOR MICROSOFT WINDOWS OPERATING SYSTEM

Microsoft Corporation (以下「マイクロソフト」といいます)は、本追加ソフトウェアのライセンスをお客様に供与します。Microsoft Windows operating system ソフトウェア (以下「本ソフトウェア」といいます) を使用するためのライセンスを取得している場合

同意する(A)

推奨ダウンロード サイズ 48 MB
推奨ダウンロード時間 約 1 分
推奨ダウンロード速度 約 7 分

インストール(I) キャンセル

パソコンの再起動を促すメッセージが表示された場合は、パソコンを再起動すると、セットアップが再開します。

③ 選択して実行

移行元のデータを選択します。

ここをクリックすると「データコンバート事前確認レポート」が出力されます。

④ 「データコンバート事前確認レポート」(以下「レポート」)の確認 出力されたレポートをもとに、コンバートできるかどうかを確認します。

コンバート可能 ○

次ページに進みます。

コンバート不可 ✕

購入前はOBCまたは販売パートナー、購入後はサポートセンターまでお問い合わせください。

レポートの保存先はデスクトップです。
※③で保存先を変更している場合は、指定した場所に保存されます。



- コンバート時間の確認

《参考情報》

コンバート所要時間 約 7分

コンバート時間の概算時間です。
コンバート時の参考にご利用ください。

- 「コンバート可能なデータ」で警告が出ている場合

《確認結果》

コンバート可能なデータです。

【B009】

コンバート後に登録可能な明細件数は「3,051件」です。

対処方法は、以下のヘルプをご参照ください。

https://help.obc.jp/FI_Accounting_I_convert/index.htm#t=FI_Accounting_Convert%2F90

出力された内容を確認して対処します。

ステップ 3 移行元の製品環境を確認しましょう

ツールでは確認できない、以下の内容について確認します。

1. コンバートを実施するパソコンの確認

コンバートを実施するにあたって、移行元の製品と『勘定奉行クラウド』が同じパソコンにセットアップされている必要があります。

※移行元の製品がネットワーク対応製品の場合は、クライアントプログラムと同じパソコンにセットアップされている

2. 過去のデータの取り扱いの確認

以下の場合、移行元の製品の環境を残しておいてください。

- 消費税の修正申告が必要な場合
(『勘定奉行クラウド』は、2018年より前の修正申告には対応していません。)
- すべての事業年度を『勘定奉行クラウド』に移行しない場合

移行元の製品の環境が残せない場合は、購入前はOBCまたは販売パートナー、購入後はサポートセンターまでお問い合わせください。

ステップ 4 移行した際の制限事項を確認しましょう

移行元の製品に搭載されていて、『勘定奉行クラウド』では未搭載の機能やメニュー、移行できないデータについて確認します。

1. 未搭載機能の確認

『勘定奉行 / 』シリーズに対する未搭載の機能の一覧です。
利用している機能がないかをご確認ください。

■ 導入処理

1. 過去年度のデータ削除
2. システム科目区分の変更
(「繰越利益剰余金」、「販売費及び一般管理費計」、「税引前当期純利益」)
3. システム科目の変更 (「繰越利益剰余金」)
4. 同じ部門を複数の部門グループに登録
5. 部門グループの汎用データ作成・受入

■ 仕訳処理

6. 仕訳と元帳の専用用紙 (連続用紙)
7. 登録時同時発行機能
8. 仕訳伝票の転記機能
9. 『OFFICE BANK21』からの入出金明細データの受入
10. 仕訳の検索条件パターン

■ 分析帳票

11. 「経営分析」「構成グラフ」「キャッシュ・フロー確認表」の部門指定による出力機能
12. 「構成グラフ」の要素の追加とグラフ色の編集機能

■ 決算報告書・消費税申告書

13. 「決算報告書」の発生 / 部門指定 / 集計期間による出力機能
14. 「科目別課税対象額集計表」「科目別税区分集計表」「税区分明細表」による補助科目の指定

■ その他

15. 部門実績配賦パターン登録で「部門別の配賦先科目の指定」機能
16. 予算実績対比表の比較予算機能
17. 奉行 10 形式での汎用データ作成
18. 奉行 21 形式で作成された仕訳伝票データ受入

2. 未搭載メニューの確認

『勘定奉行 / 』シリーズに対応する未搭載メニューの一覧です。
利用しているメニューがないかをご確認ください。

メインメニュー	サブメニュー	サブメニュー2	
導入処理	開始残高一括振替		
	開始残高入力制限		
	科目別金額確認リスト		
	導入前金額入力制限		
	電子申告情報変更		
仕訳処理	電子記録債権処理		
	反対仕訳一括起票		
	仕訳伝票入力内容チェック		自己承認伝票確認リスト
			消費税手入力確認リスト
	仕訳入力補助		部門別税区分表示設定
	特殊仕訳設定		
	伝票区分登録	伝票区分グループ登録	
会計帳票	内訳表	現預金内訳表	
	取引先一覧表		
分析帳票	損益分岐点分析		
	A B C分析		
予算管理	予算実績集計表		
消費税申告	課税制度別納税額比較表		
	課税制度別納税額シミュレーション		
随時処理	奉行連動データ作成	申告奉行データ作成	
	他システム連携	有価証券報告書の開示支援システム	
	データ一括変更		マスターデータ一括変更
			マスターデータ一括削除
			金額データ一括削除
			消費税一括自動計算
		定型仕訳一括削除	
データ領域合算			
管理ツール	アクセス状況		

3. 移行できないデータの確認

以下のデータは、コンバートされません。
移行されないデータは、コンバート後に『勘定奉行クラウド』で登録・設定してください。

- 仕訳伝票設定 [仕訳処理] メニュー [設定] ([F 3] キー)
- 印刷条件
- 集計パターン
- 汎用データ受入の受入データ形式
- 操作ログ
- 仕訳伝票予約情報 (『奉行 J - 会計編 -』以外)
- 仕訳伝票入力の期間制限の設定 (『奉行 J - 会計編 -』以外)
- 承認情報 (『奉行 J - 会計編 -』以外)
- 利用者情報 (ネットワーク版または利用者を複数人登録していた場合)
- メニュー権限 (ネットワーク版または利用者を複数人登録していた場合)
- 奉行 My スペース (『勘定奉行 i 10』のみ)

4. 運用の変更の確認

以下の製品と直接連動している場合は、『勘定奉行クラウド』に移行後は、CSVファイルで連携します。

- 『申告奉行 [法人税・地方税編]』シリーズ
- 『申告奉行 [内訳書・概況書編]』シリーズ
- 『固定資産奉行』シリーズ
- 『償却奉行』シリーズ
- 『商奉行』シリーズ
- 『蔵奉行』シリーズ
- 『給与奉行』シリーズ

ステップ 5 移行元の製品で必要な確認をしましょう

実際にコンバートする前に、以下の内容を確認します。

該当しない場合は、必要な作業はありません。

■ 未承認伝票（承認機能をご利用の場合） 『奉行』-会計編-』以外

移行元の製品で未承認伝票がある場合は、承認してからコンバートしてください。

■ 未転記伝票（転記機能をご利用の場合） 『奉行』-会計編-』以外

移行元の製品で未転記伝票がある場合は、転記してからコンバートしてください。

■ キャッシュ・フローの設定（キャッシュ・フロー計算書をご利用の場合） 『奉行』-会計編-』以外

[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー項目設定]
-[キャッシュ・フロー属性設定]メニューを開きます。
[利益科目]（[F 5] キー）を押します。

増減金額	第一調整元項目コード	第二調整先項目コード	項目名
	AS P6200		繰越利益剰余金
	CF 0001		税引前当期純利益

登録されている項目の値が異なる場合は、この値で登録します。



Memo

＜ コンバート代行（有償）をご依頼のお客様用 ＞ 事前確認シート

このたびは、『勘定奉行クラウド』をご検討いただきありがとうございます。弊社ではお客様の大切なデータを『勘定奉行 / 10 / i 8 / i / J』シリーズ（以下、移行元の製品）からコンバートするため、事前にお客様の現在のご利用状況を確認させていただいております。大変お手数ですが、以下の設問に回答を記入し、ご返却くださいますようお願いいたします。

お客様情報	会社名	
	ご担当者様	

Q1. 「データコンバート事前確認レポート」を出力して、以下をご確認ください。 (▶出力方法は4ページへ)

『勘定奉行クラウド』へコンバート可能かを、『データコンバート事前確認ツール』を利用して判定します。4ページの「ステップ2 移行するデータがコンバート可能かを確認しましょう」の内容に沿ってツールを実行し、出力された「データコンバート事前確認レポート」と「事前確認シート」（当ページ）を一緒にご返却ください。

回答 レポートを出力しましたか？
※レポートを保存していただき、本ページと一緒にご返却ください。

Q2. 『勘定奉行クラウド』へ移行したいデータ量について教えてください。

過去年度のデータについては、現在お使いいただいている移行元の製品でご確認いただけます。3ページの「移行可能なデータ容量」をご確認いただき、『勘定奉行クラウド』へ移行したい事業年度をご確認ください。

回答

Q3. ご希望の過去データ参照方法について教えてください。

現在ご利用いただいている移行元の製品は、そのまま環境を残していただくことを推奨しています。パソコンを新しくする場合は、新しいパソコンにも移行元の製品をセットアップしていただく必要があります。お客様が現在お持ちのDVDでセットアップしていただけますが、新しいパソコンのOSに対応していない場合などは、必要に応じてセットアップのDVDを送らせていただきます。

【※注】新しいパソコンへの移行元の製品のセットアップ作業をご希望の場合は、別途有償となります。必要に応じて、ご相談いただけますようお願いいたします。

回答 今までと同じパソコンで過去のデータが見られれば良い
 『勘定奉行クラウド』を導入するにあたりパソコンを新しくするので、新しいパソコンで過去のデータも見られるようにしたい
⇒新しいパソコンのOSにチェックを付けてください
・ ・ ・ Windows 10 / Windows 8.1 / Windows 7 (SP __)

Q. 旧パソコンはインターネットに接続できますか？

(普段はインターネットに接続していないが、コンバートを実行する際に一時的でも接続できる場合も、「はい」にチェックを付けてください。)

コンバートは、現在ご利用いただいている移行元の製品がセットアップされているパソコンで実行する必要があります。

旧パソコンでコンバートが実行できるかを確認させていただきます。

回答 はい いいえ

Q4. 8ページの「ステップ4 移行した際の制限事項を確認しましょう」の内容はご確認いただけましたでしょうか？

移行元の製品と比べて、未搭載機能やメニューがございます。お客様の運用に支障がないかを必ずご確認ください。

回答 はい、確認しました。

— 禁無断転載 —

2019年 10月 17日 第4版

著者 株式会社オービックビジネスコンサルタント システム開発グループ
発行所 株式会社オービックビジネスコンサルタント 出版部

〒163-6032 東京都新宿区西新宿6丁目8番1号 住友不動産新宿オークタワー
TEL 03-3342-1880
<https://www.obc.co.jp>

■ 落丁・乱丁がございましたら、お取りかえいたします。



OBC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.